

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | | 設置認可年月日 | | 校長名 | | 所在地 | | | | | | | |
|------------------------|--|--------------|------|--|--|---|------|------|--|--|--|--|--|
| トライデントデザイン 専門学校 | | 平成1年1月31日 | | 坂本 直之 | | 〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-1-11 (電話) 052-582-1785 | | | | | | | |
| 設置者名 | | 設立認可年月日 | | 代表者名 | | 所在地 | | | | | | | |
| 学校法人河合塾学園 | | 昭和53年8月1日 | | 河合 英樹 | | 〒461-8611 名古屋市中村区今池1-5-31 (電話) 052-735-1600 | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | |
| 文化・教養 | 文化教養専門課程 | イラストデザイン学科 | | 平成21年文部科学省 告示第22号 | — | | | | | | | | |
| 学科の目的 | デザインの基礎知識と、コミュニケーション能力のある人材を育成する。 | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成29年2月28日 | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 講義 | | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | |
| 2年 | 昼間 | 2040時間 | | 270時間 | 1770時間 | 0時間 | 0時間 | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 留学生数(生徒実員の内) | | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | |
| 40人 | 4人 | 0人 | | 1人 | 7人 | 8人 | | | | | | | |
| 学期制度 | ■前期: 4月 1日～ 9月30日 ■後期: 10月 1日～ 3月31日 | | | 成績評価 | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成果物、小テスト等による総合判定。 | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始: 4月 1日以降 ■夏季: 7月20日～ 8月30日 ■冬季: 12月24日～ 1月 7日 ■学年末: 3月19日～ 3月31日 | | | 卒業・進級 条件 | 進級・卒業は、当年次に必須科目を全て単位取得して、進級もしくは卒業判定会議で承認されること。 | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別、あるいは保護者同伴での面談 | | | 課外活動 | ■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 イベント実行委員会、アメリカデザイン研修、アメリカスカー シップ留学、シンガポール交換留学など ■サークル活動: 有 | | | | | | | | |
| 就職等の 状況※2 | ■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) デュエットプランニング、マイルーム、アズクリエイティブなど一般企業及び デザイン業界 | | | 主な学修成果 (資格・検定等) ※3 | ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) | | | | | | | | |
| | <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> | | | | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③の いずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得する もの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 |
| 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学 の現状 | ■中途退学者 3名 ■中退率 15.8 % 平成29年4月 1日時点において、在学者 19名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者 16名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学校生活への不適合、精神疾患 | | | ■中退防止・中退者支援のための取組 個別面談、保護者会の実施、学費援助制度の導入、臨床心理士カウンセリング、カウンセリング勉強会の実施 | | | | | | | | | |
| | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 トライデント奨学生制度・・・学力、出席率、品行ともに優秀であり、他の学生の模範となりうる者に対して、特待生として認定し、授業料の一部を進級時に免除。 トライデント海外留学奨学生(スカーシップ留学)制度・・・学業成績の優秀な者に海外留学で海外でのデザインと語学の学習を通して、真の国際感覚と広い視野を身につける機会を与える。 トライデント同窓会奨学生制度・・・卒業生で組織されている同窓会より、人物、学業成績が優秀で勉学上経済的援助が必要な者に対し、進級時年額10万円を上限給付。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による 学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 無 | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科の ホームページ URL | http://design.trident.ac.jp/ | | | | | | | | | | | | |

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

常に業界第一線の状況を把握し、最先端の知識や技術を学校として吸収し教育内容に反映していくことはもちろんのこと、学生への教授についても第一線の仕事のすすめ方なども熟知したうえで実施するため、本校で開催する教育課程編成委員会においては、関連企業、業界団体、学識経験者等からの要請、提言を聴取し、該当学科、ひいては学校全体の教育運営に資することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

上記の方針により設置される教育課程編成委員会は学科の諮問、支援会議体として校長の委嘱を受けた委員により、該当学科の授業科目の設定、授業内容の改善、授業手法の開発・改善など全般的な助言を行う。提出された助言については、校長、教務チームにおいて協議のうえ学科長に指示し、実行や改善に着手する。また、教育課程編成委員会からの助言とその助言に基づく学校としての改善実行計画については、別の委員会である学校関係者評価委員会で特に言及し評価を受けるものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|-----------------------------|--------------------------|----|
| 渡邊 伸哉 | 竹田印刷株式会社 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年) | ③ |
| 中川 義千 | 中部クリエイターズクラブ | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年) | ① |
| 坂本 直之 | トライデントデザイン専門学校 校長 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年) | |
| 森 きよみ | トライデントデザイン専門学校 統括チーフ | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年) | |
| 山城 明子 | トライデントデザイン専門学校 教務・就職チーフ | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年) | |
| 石澤 広子 | トライデントデザイン専門学校 学科長 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年) | |
| 矢頭 由妃 | トライデントデザイン専門学校 サブ学科長 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年) | |
| 高見 航 | トライデントデザイン専門学校 教務担当 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年) | |
| 池内 琴未 | トライデントデザイン専門学校 教務担当 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年) | |
| 日比野 誠 | トライデント専門学校事業本部 キャリアセンター統括室長 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年) | |
| 杉本 昭二 | トライデント専門学校事業本部 キャリアセンター統括室 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年) | |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(11月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 平成29年11月17日 14:00～16:00

第2回 平成30年 2月 2日 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

11月17日に実施した第1回委員会では、2016年教育の総括及び教育課程編成委員会からの指摘を盛り込んだ2017年度カリキュラム改善・変更点の報告。2018年度カリキュラム策定にあたり、イラストデザイン及び印刷業界の動向、必要なスキルについて提言をいただいた。①知的財産について②英語力について①は、資格検定対策としての導入も検討したが講師スケジュールなどが合わず、外部からの講演などを2018年カリキュラムに反映できるように検討する。2月2日に実施した第2回委員会では、2017年度の教育・カリキュラムの振り返りを行った。③卒業制作やイラスト展のあり方について、進級制作展と同時開催にするなど時期の見直しや、企業へ学校側からPRのためにDMの郵送など2018年に実施する。②については、求められる能力としては必要だがカリキュラムのブラッシュアップが必要でテキストなどを2018年に変更を実施。③については、2019年カリキュラムに反映させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 企業との連携による演習等の科目においては、企業の業務水準を現実的に体感させることを主目的に設定する。疑似体験的な演習講義を通じて、企業で日常使われている技術・知識を体験、習得させる。また、授業を通じて学生たちが生み出した成果物に対する評価においても、学校という教育環境下での評価ではなく、市場を見据えた企業の現実の評価基準での判定を実施していただく。また、こうした演習全体を通じて、社会人基礎力を涵養していくことも合わせて目的に設定する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

制作の現場において、作品のクオリティを上げるために使える時間には限りがあり、学校教育の現場と決定的に異なる要素である。知識や技術を単にもっているだけではなく、いかに短時間に有効な手法や問題解決の解法を見つけることができるかが、実社会においてはアドバンテージになっていく。本学科の演習においては、知識・技術の習熟とともに、そうした実践的な応用力を培っていくことを主眼に実施する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|----------|--|--------------------------------------|
| トライアルコンペ | デザイン分野のコンペティション入賞を目指した作品作りを行うことを目的とする。 | 竹田印刷株式会社 株式会社ダリヤ 中村区区民まつり実行委員会 |

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 専門学校教員として、自己の専門分野における最先端の知識・技術の習得のために、業務上一定の時間を費やすことを学校として求めている。ただし、個人の努力目標のみではなく、業界第一線の知識・技術の習得については学校として機会を積極的に提供していく。また、専門知識のみではなく、授業に関わる技術など教育力向上のための機会についても法人全体の課題として取り組んでいく。

(2)研修等の実績
 ①専攻分野における実務に関する研修等
 研修名「ものづくり、サービスを深めるカラーユニバーサルデザイン」(連携企業等:NPO人にやさしい色づかいをすすめる会)
 期間:11月21日(火) 対象:学科長
 内容:カラーユニバーサルデザインの必要性

②指導力の修得・向上のための研修等
 研修名「就職活動支援講座」(連携企業等:愛知新卒応援ハローワーク ジョブサポーター)
 期間:9月5日(火) 対象:全教員
 内容:就職環境の現状の理解と教員による学生の就職活動支援について

研修名「ハラスメントのない学びをめざして」(連携企業等:河合塾ハラスメント防止・対策委員会)
 期間:9月5日(火) 対象:全教員
 内容:よりよい学習環境を作るため、学生指導におけるハラスメントの防止について

(3)研修等の計画
 ①専攻分野における実務に関する研修等
 研修名「メディア・ユニバーサルデザイン」(連携企業等:メディア・ユニバーサルデザイン協会)
 期間:2018年6月26日(火) 対象:学科長
 内容:障壁(バリア)を取り除くことで、ハンディキャップのある人にも快適な普通の生活を送ることを可能にするためのデザインについて

②指導力の修得・向上のための研修等
 研修名「PROGテストを活用した教育方法」(連携企業等:北陸大学経済経営学部長・未来創造学部長 山本啓一教授)
 期間:2018年8月9日(木) 対象:全教員
 内容:ジェネリックスキルを高めていく教育の仕組みを整備していくために、コンピテンシーの特徴やPROGテストの活用事例などを知り ミニワークショップを行い、PROGテストの今後の活用方法を考える。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

校長直属の委員会として学校関係者評価委員会を設置し、「学校自己点検・評価報告書」および「授業科目等の概要」を中心に学校に対する外部評価を実施する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|---------------|-----------------------------------|
| (1)教育理念・目標 | 教育理念・教育目的、教育理念・教育目標の周知、教育方針、独自性 |
| (2)学校運営 | 学校運営の方針、事業計画、学校組織・組織の活性化、意思決定プロセス |
| (3)教育活動 | 各学科の概要と学修目標、学習目標とカリキュラムの関連性、各科目 |
| (4)学修成果 | 在校生による具体的作品・成果、受賞、資格取得に関する考え方、資 |
| (5)学生支援 | 就職指導の全体方針、就職に関する目標設定の考え方、就職に関す |
| (6)教育環境 | 施設・設備、保健・衛生管理、防災・災害に対する体制 |
| (7)学生の受入れ募集 | 学生募集活動の考え方、学校案内パンフレット・学校紹介ホームペー |
| (8)財務 | 予算、会計監査 |
| (9)法令等の遵守 | 個人情報保護、学校自己点検・自己評価、学校関係者評価 |
| (10)社会貢献・地域貢献 | 企業・団体との交流、附帯教育事業 |
| (11)国際交流 | 留学生の受入れ |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

2016年度のカリキュラムの総括及び2017年度のカリキュラムの改善点の報告とともに、2017年度に実施した自己点検・自己評価報告書の評価を行っていただき、それらの評価から以下活用予定である。

① 前回指摘の「教育理念・教育目的について」は不明瞭さについては、改善はみられるもののまだ理念が抽象的すぎるとの指摘を受けた。中期ビジョンを壮大に、短期ビジョンは具体的に打ち立て、どういった学生を輩出したいのかを明確にする必要がある。現行の募集活動では、オールマイティな学生の育成としか受け取れないので、カリキュラムを見直し、就職やコンペ実績などしっかりとアピールできるよう2018年度に反映させる

② 「卒業生への支援体制について」パソナと提携をし、就職相談を受けられるサービスについて、保有しているがアピールできていない現状がある。2019募集ツールに反映できるように検討をする。また同窓会ネットワークについても今後構築していくことを検討を実施する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年4月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|-------|--------------|--------------------------|--------|
| 三木 哲朗 | 竹田印刷株式会社 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年) | 企業など委員 |
| 大竹 伸明 | 株式会社バウハウス丸栄 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年) | 企業など委員 |
| 山田 雄大 | 有限会社たけひろ建築工房 | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年) | 卒業生 |
| 伊藤 浩二 | 株式会社ジャパーナ | 平成29年4月1日～平成30年3月31日(1年) | 卒業生 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページで公表
URL: <http://design.trident.ac.jp/>
公表時期: 毎年12月末日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

全体として少しずつ公開項目を増やしていく。広報的作成物だけではなく、自己点検などの機会を利用して正確な情報を整理し、順次公開を進めていく。また、学生配付物についても、より多様な情報提供をリアルタイムで提供できるように取り組みを進めている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|-----------------|---|
| (1)学校の概要、目標及び計画 | 教育理念・教育目的、教育方針、学校運営の方針、特色、校長名、所在地・連絡先、学校の沿革、防災、保健衛生 |
| (2)各学科等の教育 | 各学科のカリキュラム編成方法、年間の授業計画、進級・卒業の要件、コンペ・コンクールの実績 |

| | |
|-------------------|-------------------------------------|
| (3)教職員 | 教職員組織図 |
| (4)キャリア教育・実践的職業教育 | 実習の意義、就職指導の全体方針、就職指導体制、就職実績、具体的就職指導 |
| (5)様々な教育活動・教育環境 | 学校行事、クラブ活動 |
| (6)学生の生活支援 | 学生生活相談 |
| (7)学生納付金・修学支援 | 学費、学費援助制度 |
| (8)学校の財務 | 河合塾学園事業報告 |
| (9)学校評価 | 学校自己点検・評価報告書 |
| (10)国際連携の状況 | |
| (11)その他 | |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページにて毎年7月末日に公表)

URL:<http://design.trident.ac.jp/>

授業科目等の概要

| (文化教養専門課程イラストデザイン学科) 平成29年度 | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------------|------|------|------------|--|---------|----------|-------------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | デッサンⅠ・Ⅱ | 造形活動をおこなう上での根幹的表現力であるデッサンの、伝統的かつ基本的手法を習得する。基本的なものの見方と姿勢を身につける。 | 1通 | 180 | 6 | ○ | | | ○ | | | | |
| ○ | | | コンポジション | アクリルガッシュ等を使用して平面構成を行い、色と形、そして空間とそれらの関係を理解し、構成する能力を養う。 | 1前 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | | |
| ○ | | | デザイン史・色彩概論 | デザインの起源から現在までの変遷を、特に近代デザインに重点を置いたデザイン史の知識を身につける。/色彩についての基本的な知識と体系を身につける。 | 1前 | 30 | 1 | ○ | | | ○ | | ○ | ○ | |
| ○ | | | 感性教育Ⅰ・Ⅱ | 体験的授業手法とグループワークを通し、創作者に求められる感性を育む。 | 1通 | 120 | 4 | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | イラスト技法Ⅰ | 基本的な画材の特性と描写技法を知り、作品制作に対する意識を高めることを狙いとする。 | 1前 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | イラスト技法Ⅱ | 画材の基本的な使い方と表現技法などの知識と技術を学び、イラストレーションの基礎を習得する。 | 1前 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | イラスト技法Ⅲ | 様々な技法を使い、テーマに即したコンセプトの確立と、それに伴う個性的な表現へ展開できる力を養成する。 | 1後 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | イラスト技法Ⅳ | 画材に応じた表現技法の幅を広げ、作品のテーマを明確にして、表情豊かな作品制作をすることを目的とする。 | 1後 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | CGⅠ | 代表的なグラフィック/ドロー系のソフト「Illustrator」を使って基本的な作図方法を習得する。 | 1前 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | CGⅡ | 「Photoshop」の基本操作を学び、個性豊かなCG作品を制作、「Illustrator」と組み合わせて画面レイアウトまで身につける。 | 1後 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 日本画 | 日本画の多彩な表現方法を学び、作品の表現幅を広げることを目的とする。 | 1前 | 60 | 2 | ○ | | | ○ | | | | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | |
|----|--|-----------|--|------|-----|----------------|---|---|---|--|---|---|---|
| ○ | | トライアルコンペ | デザイン分野のコンペティション入賞を目指した作品作りを行うことを目的とする。 | 2前 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| ○ | | ビジュアル研究Ⅰ | イラストレーションを使用した展開（DM・ポスターなど）の制作と、作品発表（展覧会）を行うことを目的とする。 | 2前 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | ビジュアル研究Ⅱ | オリジナルイラストを使用したポスター制作と卒業後を見据えたポートフォリオを作成することを目的とする。 | 2後 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | Webデザイン | htmlの基本から作品紹介のためのホームページ作りを習得する。 | 2前 | 60 | 2 | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | 卒業制作 | 各専攻のテーマに基づき、完成度の高い、個性豊かな作品や実験的な作品を制作し、二年間の総仕上げとする。 | 2後 | 240 | 8 | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | キャリアデザインⅢ | 自己分析や社会、企業などの理解を通して、職業選択をする。 | 2前 | 30 | 1 | ○ | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | 就職研究Ⅰ・Ⅱ | 個々の学生の目標業種に応じた取組みを行い、また、就職活動の状況を把握し、効果的に就活を進めるための総合的サポートをおこなう。 | 2通 | 60 | 2 | ○ | | ○ | | ○ | | |
| 合計 | | | | 32科目 | | 2040単位時間(68単位) | | | | | | | |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|--|--|----------|-----|
| 進級・卒業は、当年次に必須科目を全て単位取得して、進級もしくは卒業判定会議で承認されること。 | | 1学年の学期区分 | 2期 |
| | | 1学期の授業期間 | 15週 |

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。